

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

平成20年度

施設評価調書

施設の名称.....吉佐美運動公園

所管担当課.....教育委員会生涯学習課

平成20年7月

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

施設の概要

1 施設名 (愛称名)	下田市立吉佐美運動公園		2 担当課 担当係	生涯学習課 社会教育係			
3 所在地	下田市 1900 番地の 1		4 設置年月	昭和 49 年 1 月			
5 総合計画の 位置付け	人財づくり	自ら学ぶ歴史のまちづくり		スポーツ			
	施策体系	スポーツ施設の整備・充実		既存施設の整備・充実			
	主要事業						
6 設置目的	市民の健康の増進と体育の向上及びレクリエーションの振興を図り、かつ、市民の健全な憩いの場として活用する。						
7 設置根拠	下田市立吉佐美運動公園の設置及び管理に関する条例						
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 全体面積 17,853.83 m ² 運動広場 9,663.35 m ² 駐車場 50 台程度 トイレ男女障害者 運動公園 野球場レフト側 110m、センター 80m、ライト側 90m					
	実施事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 49 年から、国有地を占有し「下田市立総合グラウンド」として整備し、以後、市内屋外体育施設の中核をなす役割を担ってきた。 平成 15 年度に国有地の 1 / 3 を払い下げ、2 / 3 を無償貸与という契約を締結し、その条件として平成 20 年 3 月 11 日を期限に運動公園の整備を進めてきた。(整備事業概要 - トイレ兼器具庫改築、防球ネット設置、駐車場整備) 平成 16 年度から、名称を「下田市立吉佐美運動公園」と改め、体育施設と公園施設の性質を併せ持つ社会教育施設として活用を図っている。 					
	料金体系	料金区分	<ul style="list-style-type: none"> 運動公園使用料 				
		主な料金	利用者区分	利用時間区分		1 日	
				午前	午後		
			一般	市内	8:30 ~ 12:30	12:30 ~ 17:00	8:30 ~ 17:00
				市外	1,400 円	1,600 円	3,000 円
	高校生以下	市内	2,800 円	3,200 円	6,000 円		
		市外	700 円	800 円	1,500 円		
	市外	1,400 円	1,600 円	3,000 円			
減免内容	<p>(使用料の減免)</p> <p>第9条 市長は、特に必要があると認めるときは、使用料を減免することができる。</p> <p>2 前項に規定する使用料の減免は、次に定めるとおりとする。</p> <p>(1) 下田市が主催し、又は委託する事業で使用するとき。 全額免除</p> <p>(2) 下田市内の保育所、幼稚園又は小中学校が、園児、児童又は生徒の保育若しくは教育のために使用するとき。 全額免除</p> <p>(3) 官公署、公益法人又は報道機関が、公益事業のため入場料を徴収しないで使用するとき。 全額免除</p> <p>(4) 前各号に定めるもののほか、市長が特に必要があると認めるとき。 市長が定める額</p>						
利用料金制度	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>						
施設運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営						
	指定管理者制度	指定管理者					
	一部委託	委託内容					
直接従事職員	下田市職員数 0.033 人工 委託団体職員数 エルダーの会						
9 市内の類似施設	下田市所有	敷根公園、学校屋外体育施設					
	民間所有	なし					

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		平成19年度末残高		(備考) 減価償却の方法 ・定額法 ・残存価格1円 ・新設年度翌年から償却 ・耐用年数 50年 市債は防球ネット、駐車場等整備に係るものを含む。	
	土地取得費	57,700,000	土地残高			
	建物取得費	21,067,200	建物減価償却後残高	19,803,168		
	財源内訳					
	国・県支出金					
	市債	27,100,000	市債残高	27,100,000		
	一般財源					
	物品(*万円以上)		物品減価償却後残高			
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		H17年度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度予算
	収入	吉佐美運動公園 使用料	222,138	190,052	275,850	200,000
	収入合計		222,138	190,052	275,850	200,000
	支出	11節 需用費	541,632	225,374	173,918	227,000
		消耗品費	145,500	32,548	32,660	37,000
		印刷製本費	7,350	28,000	1,890	20,000
		光熱水費	96,422	125,358	129,971	130,000
		燃料費	10,960	9,543	9,397	10,000
		修繕料	281,400	29,925	0	30,000
		12節 役務費	2,096	73,752	68,752	79,000
		13節 委託料	706,020	702,450	702,450	703,000
		17節 公有財産購入費	0	0	0	0
	支出 公園整備事業	11節 需用費	0	38,099	0	0
		12節 役務費	12,000	0	0	0
		13節 委託料	672,000	0	0	0
		15節 工事請負費	21,067,200	5,872,650	1,375,500	0
	支出合計		23,000,948	6,912,325	2,320,620	1,009,000
	減価償却費		421,344	421,344	421,344	421,344
	市債利子			395,362	523,476	534,099
	事務に係る職員人件費		231,027	195,004	208,902	209,906
下田市負担年間総経費		23,431,181	7,733,983	3,198,492	1,974,349	
備考	人件費は、1/40人工として職員人件費平均から算出したもの					
12 施設利用状況等の推移	利用状況	利用年度	H17年度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度
		利用者数	5,760人	4,977人	5,367人	人
		参考:利用単位当たり市負担額	4,067.91円	1,553.94円	595.96円	円
		11欄の「下田市負担年間総経費」÷利用者数				
	休業日	12月29日から1月3日まで				
使用時間	午前8時30分から午後5時まで					
13 利用者満足度調査	実施の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		調査結果		
	直近の実施時期					
	調査手法					
	調査数					

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立吉佐美運動公園

番号 25

業績評価

1 目標達成度

目標達成度	区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
	利用者数の目標値	人	6,700人	6,700人	6,700人	6,700人
	" の実績	人	5,760人	4,977人	5,367人	
目標達成度		%	85.97%	74.28%	80.10%	
選択した指標	成果指標					
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由					
	過去8年間の最高値(H13 6,700人)を目標値として設定。					
指標設定の考え方	区分	指標名	指標の考え方			
	成果指標	市民の健康増進とレクリエーションの振興と憩いの場の提供	公園であるため占有使用以外に不特定多数の利用があり施設活用による達成度合いが判断しにくい。			
	代替指標	施設利用者数				

(参考)

活動指標(施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標)

活動指標		区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
活動指標	目標指標	目標値					
		実績値					
		達成度					
活動指標	目標指標の考え方						
活動指標	目標指標	目標値					
		実績値					
		達成度					
活動指標	目標指標の考え方						
活動指標	目標指導	目標値					
		実績値					
		達成度					
活動指標	目標指標の考え方						

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立吉佐美運動公園

番号 25

2 効率性

効率性	区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
	施設の総利用者数等		人	5,760人	4,977人	5,367人	
	年間経費	施設の事業費・運営費および人件費の合計額	円	23,000,948	6,912,395	2,320,620	0
	利用単位当たり経費	÷	円/人	3,993.22	1,388.87	432.39	
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等について用いた指標について記載してください。	申請における利用者数を集計して総利用者数としている。運動公園になり占用以外の使用は自由となったため、占用以外のトイレのみの利用等は含まない。		備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。		H15 公有財産取得費を含む H16 トイレ兼器具庫設計費含む H17 トイレ兼器具庫建設工事費含む H18 防球ネット設置工事費含む H19 駐車場整備工事費含む。		

その他の指標		区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
目標指数	目標指数	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数の考え方							
目標指数	目標指数	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数の考え方							
目標指数	目標指数	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数の考え方							

受益者負担の適正性	区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度
	有料部分の年間経費	使用料等を徴収する部分の年間経費	円	23,000,948	6,912,325	2,320,620
	受益者負担額	施設の本来の目的による使用料等の年間総額	円	222,138	190,052	275,850
	受益者負担比率	÷	%	0.96%	2.75%	11.89%
	補正受益者負担額	減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	円	321,838	318,552	393,700
	補正受益者負担比率	÷	%	1.39%	4.61%	16.97%

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

施設の現状分析

判断視点		項目	施設の状況
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	概ねされている。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ会場として市民の健康保持、レクリエーション活動の拠点提供。 ・公園として憩いの場を提供。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めていけるか	<ul style="list-style-type: none"> ・当該施設は、海水浴場に隣接し自然環境に恵まれた運動公園施設である。 ・利用率の高い敷根公園健康広場の補完的な施設としての需要がある。 ・類似施設と連携した運営が図れると、より質の高いサービスの提供が期待できる。 ・緊急的なヘリコプターの発着も可能で、災害時における活用も期待できる。
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどのようなものか	平成17～19年度で公園整備事業が終了。当面のところ大規模な修繕計画は無い。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	施設内に管理棟が無いため、利用者との接点は施設使用前後の電話での問い合わせや、使用料収受の際が主となっている。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	市施設では敷根公園が設置されているが、民間施設で競合するものは無い。
		民間においても十分可能な施設なのか	公園施設としての側面もあり、採算性が薄いことから困難と判断する。
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどのようなものか	適当と判断するが、公園整備終了後の利用状況により検証する必要がある。
		同種施設との比較、近隣施設との比較はどのようなものか	使用料は、敷根公園の約1/2である。 健康広場 全面使用1日：市内6,400円
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどのようなものか	整備中は長期で利用できない期間があったため、整備後の利用状況から検討。
		施設の耐用年数は何年有るのか	トイレ兼器具庫 W造1階 20～22年
		施設の今後の維持経費の算定はどのようなものか	公園整備事業終了後の数年間は経常経費が安定すると推測されるが、設備の老朽化が進むと修繕費の増加が予想される。(特に整備事業前に設置のあった防球ネット等)

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

行政規模からの判断視点	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	妥当と判断する。
		現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	採算性、施設の設置目的から、単独の施設としては現行の管理運営形態が妥当。
	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	されていない。
	施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設統合が出来る施設の組み合わせは有るのか	運動施設と公園との両機能面から考えた場合困難。
		老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか	公園整備事業が終了し間もないため、改築廃止の予定は無い。
		地域、民間に譲渡できないのか	採算性が薄く、地域や民間では維持困難。
		施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	方法によっては可能。
その他			敷地内の一部(17,854.82 m ² のうち11,902.80 m ²)は、平成16年3月に国有財産無償貸付を受けている。

平成20年度	施設名(愛称名)	下田市立吉佐美運動公園	番号	25
--------	----------	-------------	----	----

見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	運動施設と公園という二つの性質を併せ持ち、非営利で公共性の高い施設であることから妥当である。
	受益者負担の妥当性	運動施設については、占用使用に係る使用料が条例で規定されている。受益者負担の妥当性と近隣類似施設との整合性の両側面から、料金改定について検証する必要がある。
	実施主体の妥当性	直営(一部業務委託)の現行管理体制で妥当と考える。今以上の市民サービス向上、効率性を重視するなら、他類似施設との一括管理等の検討を要する。
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	平成17年度から3ヵ年で公園整備事業を進めてきた経緯があり、現在のところは左記のような方向性はない。
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	ホームページ等を活用したPR活動の強化。 現在は、軟式野球、グラウンドゴルフの利用が大半を占めているが、設備と管理運営の充実が図れるなら、幅広い体育種目の使用も可能となり、利用者数の増加が見込める。
	執行方法の見直しなど効率化のための目標及び方策	公園としての機能もあり、不特定多数の利用者を対象とした施設でもあるため、経費面における効率化は困難。
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	公園整備事業後の利用状況を基に、分析、検証する必要がある。
アンケート調査等	市民アンケート調査等の結果	現在は行っていないため不明。 再利用率の高い施設で、使い慣れた使用者からは大きな不満の声は無い。
サービス面等	サービスの迅速性や利便性など	施設内に管理棟が無いこと、また利用頻度の高い土、日、祝祭日に、窓口となる教育委員会が閉庁しているため、迅速性、利便性には欠ける面がある。
	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	管理運営に関する全体的な見直しの中で、検討する必要がある。

平成19年度事業内容及び見直し事項

事業内容	駐車場砕石舗装工事 (A=1,800㎡) 植栽工
見直し事項	<ul style="list-style-type: none"> 当該施設は市街地郊外に位置し公共交通機関のアクセスも不十分なため、自家用車両による来場者が多い。駐車場整備を施すことで駐車区域と場所が明確になり、路盤の安定化も図れたことで一層の利便性が向上した。 植栽を施し憩いの場所提供を図った。また、市に寄贈のあった花木が敷地内に植樹され、安らぎ感を創出する空間づくりの一助となった。

平成20年度

施設名(愛称名) 下田市立吉佐美運動公園

番号 25

施設懸案事項

No.	懸案事項	改善経費	備考
1	旧防球ネットの撤去	不明	見積依頼中
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

今後の方向性

今後の方向性	充実	(具体的な内容)
	<input checked="" type="checkbox"/> 効率化等による見直し 現状のまま継続等 縮小等による見直し 統廃合を進める	
		<ul style="list-style-type: none">・ 市民の健康保持、レクリエーション活動の増進に、今後も必要不可欠な施設である。・ 公園整備事業終了後の施設利用実態を検証し、社会体育推進計画等の中で施設活用の再考を要する。・ 市民のスポーツ志向の高まりに比例し、社会体育施設の必要性もますます高くなると推測されるが、現状で約5,000人/年の利用者数は敷根公園健康広場と比較すると約四分の一の利用に留まっている。・ 収益性の乏しい施設ではあるが、利便性向上の観点からも類似施設である敷根公園との連携した活用方法や、一括した管理運営体制などについての検討も必要であると考え。